

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105263
法人名	(株)MMCドリームサービス
事業所名	グループホーム フレンド
所在地	松山市湯渡町3-18
自己評価作成日	平成25年8月8日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1ユニット9名なので、利用者・職員間の信頼関係が深く、共同生活のなかで安心した生活を提供できている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年8月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 事業所のお風呂は、奥道後の湯(天然温泉)を引いておられる。
- 居間中央には、利用者一人ひとりの顔写真とともにお名前と誕生日を貼っておられ、ご家族が来られた時には、「お若く見えますね。お元気ですね」と、他利用者とのコミュニケーションのきっかけにもなるようだ。事業所の生活が長い利用者が多いこともあり、利用者個々にご自分の席が決まっているようで、利用者はいつもの席に座ることで落ち着かれるようだ。事業所のとりの小学校から子ども達の声がすると、利用者はベランダから児童の様子をみたり、手を振ったりされる。
- 今年から、事業所内を「家庭的雰囲気近づけたい」「生活感を出したい」と取り組まれており、居室前の廊下に利用者の作品を掲示することを始めておられた。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム フレンド

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

岸 光浩

評価完了日

H25 年 8 月 8 日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  毎月のカンファレンスにて、運営方針について話し合い、理念である「心豊かに・穏やかに・自分らしく・地域と共に」を具体化し、日々現実に向けて、職員一同が取り組んでいる。	
			(外部評価)  理念にもとづき、今年度の目標について職員で話し合い、「人を思う気持ちを大事にし、その人らしく心豊かに生活できるようかかわりたい」という思いを込めて、「思」と決められた。目標が決まったことを利用者にお話しすると、習字の得意な利用者が半紙に、「思」と書いてくださり、理念とともに玄関に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  地域行事に積極的に参加し、職員・利用者様の顔を覚えていただけるよう努めている。運営推進会議を通して、地域行事予定を聞き参加している。町内会にも属し、町内便りを頂いている。	
			(外部評価)  管理者・職員は、清掃活動、夏祭り等、地域の方達とともに担当を決めて活動されており、町内の知り合いも増えている。顔なじみの地域の方が野菜やお花を持ってきてくださることもある。8月の地域の盆踊りに参加された際には利用者が、「もっと見ていたい」と希望され、最後までいて、地域の方と一緒に楽しまれたようだ。併設デイサービスに、小学生の琴演奏や高校生コーラスの訪問がある時には、利用者も一緒に楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  運営推進会議にてグループホームについて深く理解していただけるような議題にし、地域の方にも分かりやすい内容にして話し合いをしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎月のカンファレンスを通して話し合いを行い、実際に地域行事への参加など、改善に取り組んでいる。運営推進会議では、取り組んでいる内容を報告し、地域の方や、ご家族に意見をいただいている。	ご家族は利用者の暮らしと一緒に支えるケアパートナーでもあり、今後も参加しやすい会議を工夫して、会議参加を呼びかけていかれてほしい。代表者や管理者は、「会議を通し地域との結びつきを深めたい」と考えておられる。地域のいろいろな立場の方の参加を働きかけ、地域との結びつきを深めていけるような会議についても、今後も工夫を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 会議は、町内会長、民生委員等が参加されている。事業所からは、活動報告や高齢者の日常生活での注意点、感染症等、地域の方が知りたいと思うような内容を話しておられ、管理者は、「地域の方達に会議の内容が広がり、ひいては地域の認知症等の理解につながってほしい」と願い、取り組まれている。ご家族には、案内を出したり、来訪時に会議内容を伝え、参加を促しておられるが、ご都合等もあり、参加いただくことにつながっていない現状である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の中で、市の担当者に取り組み等の話をしたり、助言をいただいている。町内会長や民生委員とも、密に連絡をとり、地域行事に参加している。	
			(外部評価) 運営推進会議時には市の方が参加され、食中毒や熱中症等の注意事項について話して下さっている。会議時、民生委員の方と地域の介護を必要とする高齢者の暮らしについて、情報交換をされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在は、身体拘束を行っていない。過去に、医療的見地から拘束が必要であった事例が1件あるも、職員間にて拘束について勉強会をし、何度も協議しながら介護をして行ってきた。ご家族さまにも理解を得て短期間で拘束を終了することが出来た。記録も整備している。定期的に勉強会も続けている。	
			(外部評価) 法人代表者は、カンファレンスの機会等を捉えて、「利用者の生活にメリハリをつけ、利用者の動きや思いを大切にすることが身体拘束を予防することにつながる」と、職員に話しておられる。調査訪問時、職員は、声を荒げて話す利用者の隣に座り、ゆっくりした態度でお話をうかがっておられた。しばらくして、利用者は落ち着いた様子で過ごされていた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  毎月のカンファレンス・毎日の引継ぎを通して、職員間で確認を行っている。虐待についての勉強会を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  実際に活用されている人はいないが、協力体制は整っている。制度の理解に関しては、職員全員で勉強会を行う予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約書の中に、利用者様の権利・義務について明記している。契約時には、口頭で分かりやすく説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  玄関に、意見箱を設置しており、気軽に意見を表せるようにしている。又、ご家族の面会時には、積極的にコミュニケーションをとると同時に、可能な限りご要望等お伺いするように努めている。  (外部評価)  ご家族の来訪時、職員は、日頃の利用者の様子を報告されている。「外出させてほしい」「入院しなくて済むようにしてほしい」「必要なものがあつたら遠慮なく言ってほしい」等、それぞれに希望や要望が出されている。代表者は、今後の利用者の重度化を踏まえて、「さらにご家族の協力をいただきたい」と考えておられ、今後は、1～2年ごとに利用者個々の担当職員を交代して、ご家族がどの職員とでも話せる関係作りに取り組みたいと考えておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月のミーティングにて、それぞれの職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	
			(外部評価)	
			職員は、ご自宅からお花を持参して、利用者との会話のきっかけにされたり、職員の提案でめだかを飼っておられ、利用者とともに世話したり、眺めたりして楽しんでおられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			毎月、各職員が自己目標をたて、目標達成に向けて日々、努力している。月末には10段階の自己評価をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員研修プログラムを作成しており、重ねて法人内での勉強会、法人外への研修参加も行うようにしている。又、研修で習得したことを、職員間で共有できるよう研修報告を行っている。新人職員に関しては、1ヶ月間毎日の研修記録、現任職員の指導・評価をおこなっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム連絡協議会の研修へ参加し、交流を持つようにしている。過去に何度かは相互訪問は行ったが、定期的にはしていない。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			ご本人自身の希望要望を重視したアセスメント、懇談の機会を持つように努めている。又、担当者を中心に、本人の思いに気づくように、目・気配りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期段階で、管理者を中心にご家族の希望を聞く機会を作っている。又、面会時の会話を積極的にとり、ご家族の要望を職員間で共有している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 在宅介護・リハビリ等のさまざまなサービスを視野に入れた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 理念を元に、一つの家庭として日々の生活を共に送ることを基本として業務に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が面会し易い環境作りに努めている。又、運営推進会議にも参加していただけるよう声かけし、意見交換し易い関係作り、ホーム作りに参加していただくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入所前の職員全員での会議、体験入所など取り入れ、慎重に初期段階での対応に心掛け馴染みながらの支援に努めている。外出などでは、ご本人が慣れ親しんだ場所を目的地に選んだりしている。 (外部評価) 利用者の友人や知人が来られた時には、職員は、感謝の言葉とともに、又、来ていただけるように言葉を添えておられる。よく訪ねて来てくれるひ孫さんが来られた時には、居間で過ごされており、他利用者の方ともふれあい、利用者との親しい関係となっている。系列デイサービスに通っておられた時から書道教室に参加されていた方は、入居後も職員がお連れして、参加できるよう支援されている。職員は、ご本人の体調等、デイの職員と連絡を取り合って支援をされている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士で、お世話をしたり協力して作業を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も、電話での連絡・手紙等で継続した関わりを持つようにしている。又、職員がご本人に会いに行ったりしている。病院への長期入院の方に対しては、退院時の支援を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中や、様子などで、希望等の把握に努めている。日々の生活の中で、ご利用者に対する「気付き」を大切にしている。 (外部評価) 「生活日誌」には、職員が気になることや薬の変更等を記録しておられ、又、利用者が話されたことを具体的に記入して、すべての職員で利用者の思いや様子を把握できるよう取り組まれている。利用者の状態が重度化するにつれて、意思表示が難しい方が増えておられるようだ。	今後さらに、利用者個々のこれまでの暮らし方を探ったり、現在の暮らし、又、これからの暮らし方の希望について情報収集に取り組み、蓄積して支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人はもちろん、ご家族との会話を通して、生活歴・暮らし方などの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録・生活日誌・夜勤記録・バイタルチェック表・連絡帳をもとに、日々の変化が暮らしの中で把握できるよう引継ぎを徹底して行っている。又、地域行事も含め、ご利用者が(出来ること)に参加できるように支援している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人とは日々のかかわりの中で、ご家族とは面会時などで意向を伺い、センター方式を利用して介護計画を作成し、6ヵ月毎の見直し変更行っている。以前は、3ヶ月毎にモニタリングを行っていたが細かく観察分析するためにも毎月のモニタリングに変更している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、毎月モニタリングして半年ごとの見直しにつなげておられる。達成度は数字で表し、気になることは特記事項覧に記入するようになっている。ご家族から、「さみしがり屋だった」と言うことをお聞きして、居間でみなと過ごす時間を大切にできるような内容を盛り込んでいるケースもあった。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケース記録・生活日誌・夜勤記録・連絡帳をもとに、日々の変化・状況の把握が職員間で共有できるよう努めている。介護計画の見直しがある場合は、カンファレンスを行い話し合っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人の希望や状態、ご家族の意向に応じて、さまざまな対応が出来るよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の公園を散歩したり、近隣の学校内での地域行事に参加している。又、地域の方に来訪していただき、書道やサロン等を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人・ご家族の希望を優先している。現在は、全てのご利用者が、ホームの医療連携病院を主治医としている。	
			(外部評価) 現在は、利用者全員協力医で診てもらっている。2週間ごとの定期往診と、状態変化時には看護職員が協力医と連絡を取り、指示を受けて受診や往診にて対応されている。眼科・歯科への受診は、ご家族や職員が送迎されており、必要に応じて往診も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携の看護職員が直ぐに対応できる体制が整っている。又、日々の変化等、看護職員に報告するように連携がとれている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ホームの主治医と入院医療機関とで、情報交換をさせていただいて、適切な医療が提供されており、退院してからも安心して過ごせるようにしている。又、月2回の主治医の訪問診療時に、少しの変化でも報告している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) H23年8月 重度化した場合における対応に係る指針を作成した。ご本人と家族様に説明し、意思確認をしている。看取りに関する指針も見直し作成している。ご本人と家族様に説明していく予定である。看取りに関する勉強会を行い知識を高めるよう努め、支援内容を考えていきたい。	
			(外部評価) これまでに事業所では、看取り支援の経験はないが、法人代表者や管理者は、今後の支援の必要性を感じておられ、職員は、看取りの研修に加え、痰の吸引についての研修にも順番に参加する予定となっている。ご家族には、看取りを含めた重度化・終末期支援の希望についてアンケート調査を行い、「病状悪化した場合、どこまでの治療を考えておられるか」等、意向をうかがった。その結果、事業所での看取りを希望されるご家族がいることが分かったようだ。現在、入退院を繰り返す利用者のご家族から、今後のことについて悩んでおられる様子がうかがえ、利用者・家族、看護師・介護職員で早急に話し合うことになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時や事故発生時のマニュアルをもとに、カンファレンスにおいて確認しあっている。又、緊急連絡網の周知徹底をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練(日中・夜間それぞれ想定しての)を定期的に行っている。運営推進会議で議題に取り上げ、町内会とも連携がとれるように話し合っている。玄関先にも防災マニュアルを置き、職員全員で防災意識を持てるように努めている。	
			(外部評価) 年2回避難訓練を実施されている。消火器・AEDの使い方、毛布を使った移動方法を職員同士で体験して、利用者は見学された。施設長は、町内会長に、自主防災組織に積極的に参加したいことを伝えた際、「避難場所の小学校のトイレは狭く、和式も多く高齢者に負担がかかり、実際の災害時は使用し難い」等の課題を教えていただいた。今後は、いざという時に、事業所が協力できることについて、より具体的に示していきたいと考えておられた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉掛けや、対応はしっかり出来ている。ご本人の生活歴などを考え、ご本人の人格を尊重した対応をカンファレンスで話し合っている。	
			(外部評価) 職員は、笑顔で視線を合わせ、利用者として話をされていた。「なんでもいい」と言われる利用者の方等には、利用者の様子をみながら「どうしましょうか?」「どれがいいですか?」等、利用者自身が選んだり、決めたりできるような言葉かけに心がけておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の会話を大切に、ご本人の言葉・表情で思いや希望に気付くように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに沿って、生活のリズムに配慮しながらご本人のペースを大切に、自分自身のホームでの生活のリズムが確立されるように支援している。希望に対して直ぐに対応が出来ない時には、個々にあった声掛けをして納得していただけるよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人・ご家族の意向に合わせて、その人らしい身だしなみができるようにしている。又、外出時には、お化粧品などをしておしゃれの楽しみをもてるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度化しているため、一緒に準備や片付けは困難であるも下膳や食器拭きなどできることを見つけ協力して家事を行っている。食べたいものの希望を伺い調理している。	法人代表者は、事業所の食事支援のあり方について、「これまででは、介助が必要な利用者を中心にした食事の出し方だったのではないかと振り返っておられた。今後は、利用者一人ひとりが食事を楽しむことができるような支援を目指して、個々の食事の習慣や好み等をうかがったり、又、ご家族と話し合ったり、運営推進会議時の議題に挙げて意見やアイデアをうかがう等して、支援に工夫を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 日曜日は、利用者の希望をうかがい、献立を決めて食事を手作りされている。先日は、職員と利用者で餃子を手作りして、「おいしかった」と喜ばれたようだ。日曜日以外の昼・夕食は、宅配業者からできた食事が届くようになっており、利用者によっては、副食を食べやすい大きさに切ったり、ミキサー食にしてお出ししている。食器は、ワンプレートの食器を使用しておられ、副食毎にアルミホイルで分けて盛り付けられている。酔の物が苦手な利用者には、職員が甘めに味を調製されていた。調査訪問時の昼食後は、職員が洗った食器を拭く利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量とも適切に確保できるよう支援している。ご本人の好きな食べ物・飲み物を伺い提供できるようにしている。糖尿病をお持ちの方には、食事量を考えたり、定期的に血液検査を行っている。誤嚥や咽の危険のある方には、個々に合った食事形態を考えミキサー・きざみ、水分にはとろみ使用し工夫して対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは、声かけ・見守り・介助を行い徹底している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排泄パターンの把握及び自立支援のため、個別でのカレンダー式のチェック表を作り、時間帯等一人ひとりの利用者様に合わせた対応をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>便意がわかりにくくなってきた利用者には、パターン等を踏まえて利用者の様子の変化等もみながら、トイレ誘導する等して支援されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>適度な運動や食事・水分の管理で対応している。便秘が続く場合は、看護師に相談して下剤服用や浣腸・座薬の処置をおこなっている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>基本的には、時間帯をきめていない。ご本人の希望に合わせて週2～4回と個別に対応している。発汗・排泄の失敗があった場合は、随時入浴介助を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>午後からは、リハビリやレクリエーションを行うことになっているため、午前中が入浴時間となっている。事業所のお風呂は、奥道後の湯(天然温泉)を引いておられる。今年度から、男性職員が2名増えたことで、利用者全員が湯船で温まれるような支援ができるようになっている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>夜間不眠の方には、日中の関わり方(適度な運動や不穏にならないように密に関わる等)を工夫している。夜間は、眠前に足浴をしたり、ナイトミールを補給したりと安心して入眠できるように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は個別ファイルに綴じ、職員が何時でも目を通せるようにしている。変更があった場合には、連絡帳・申し送りで報告を行い、副作用を理解した上で、変化等の様子観察に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりが役割を持ち、助け合いながら日常生活が送れるように努めている。散歩・外出の機会を設け、楽しみ・気分転換を図れるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物・ドライブ等の外出を行い、ご利用者の希望を取り入れたイベントを企画している。又、担当者が中心となり個別支援にも努めている。	
			(外部評価) 利用者の状態等も踏まえて、ドライブ、買い物等、疲れないように、現在は1時間程を目安に出かけられるよう支援されている。今年は、近くの小学校の桜を利用者全員で見に行かれた。甘いものがお好きな利用者には、パンやケーキを買いに行く機会を作り、ご自分で好きなものを選んで買えるよう支援されている。近所の方のお庭の花を見せてもらうことを楽しみに、散歩に出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者一人ひとりに応じて、お小遣いといった形で提供している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書きたい方には書いていただいたり、電話の希望があれば職員支援のもとかけていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングには、ご利用者の方の作品・写真等を飾っている。ソファやテーブル等、快適なスペースが確保できるよう配置している。家具は、温もりのある木の家具を使用している。</p> <p>(外部評価) 居間中央には、利用者一人ひとりの顔写真とともにお名前と誕生日を貼っておられ、ご家族が来られた時には、「お若く見えますね。お元気ですね」と、他利用者とのコミュニケーションのきっかけにもなるようだ。事業所の生活が長い利用者が多いこともあり、利用者個々にご自分の席が決まっているようで、利用者はいつもの席に座ることで落ち着かれるようだ。事業所のとなりの小学校から子ども達の声がすると、利用者はベランダから児童の様子をみたり、手を振ったりされる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングでご利用者同士で話をしたり、居室で自分の時間を過ごしたりと、ご本人の思い通りに過ごせるよう支援している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 基本的に家具は持ち込みにしており、ご本人の馴染みの家具を使用いただいている。ご自分で作った作品や写真を飾り、家庭にいる雰囲気作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 今年から、事業所内を「家庭的雰囲気に近づけたい」「生活感を出したい」と取り組まれており、居室前の廊下に利用者の作品を掲示することを始めておられた。筆筒に衣類の種類を書いたシールを貼って、利用者も一緒に衣類を片付けられるよう支援しているケースもある。ご家族から、「以前から物を置くことを嫌がっていた」という情報を得て、クローゼットに利用者の生活用品等を収納されたところ、ご本人の笑顔が増えたというようなケースもある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) バリアフリーで、リビングには手すりの設置、浴槽には滑り止めマットを使用している。トイレは3箇所あり、お待ちいただくことなくすむようになっている。又、場所が認識出来るように「トイレ」と大きく表示している。</p>	